氏　　名	又賀　建太郎
学位の種類	博士（医学）
学位記番号	甲第５１４号
学位授与年月日	平成３１年３月２２日
審査委員	主査　教授　　佐倉　伸一
	副査　教授　　田邊　一明
	副査　教授　　長井　篤

論文審査の結果の要旨

血液透析療法を受けている患者の生命予後は不良である。透析患者では、アミノ酸の喪失、蛋白摂取不足、慢性炎症などのため異化亢進状態にあり、このような透析患者の病態は、現在 protein energy wasting (PEW)といわれている。老年者の栄養評価ツールとして開発されたGeriatric nutritional risk index (GNRI)は、血清アルブミン濃度、体重および身長を用いて算出される。既報により、GNRIは比較的正確に透析患者の栄養指標になることが明らかにされた。透析患者の約3分の1は心血管疾患により死亡する。しかし、維持透析患者の栄養状態が心血管または非心血管死亡率に影響を与えるか否かは不明である。このため、私どもは後ろ向きコホート研究を行った。

2006年3月に島根県内の4つの医療機関で維持血液透析中の患者を対象に７年間のカルテを確認した。登録した273人の患者をGNRIによって2群（＜92および≧92）に分類し、全死亡率、心血管および非心血管死亡率、および心血管イベント発症を分析した。統計は、カプランマイヤー法を用い、Cox比例ハザード法により交絡因子の調整を行った。期間中に109人が死亡し、139人が生存し、25人が転院した。解析の結果、GNRIは全死亡率の独立した予測因子であった。非心血管死亡率は、GNRI≧92の群と比較して、GNRI＜92の群で有意に高値であった。一方、GNRIと心血管死亡率、心血管イベント発症率との間に有意な関連は認められなかった。

以上から、GNRIは、維持透析患者において、全死亡率、特に非心血管死亡率の優れた予測因子となり得ることが初めて明らかとなった。本研究は、維持透析患者の栄養管理の重要性を改めて示し、簡便な栄養指標であるGNRIの予後予測における臨床的有用性を証明した点で、意義のある研究である。